

日本語指導体制の現状と今後の展望

日本語指導が必要な児童生徒への
指導体制の充実について

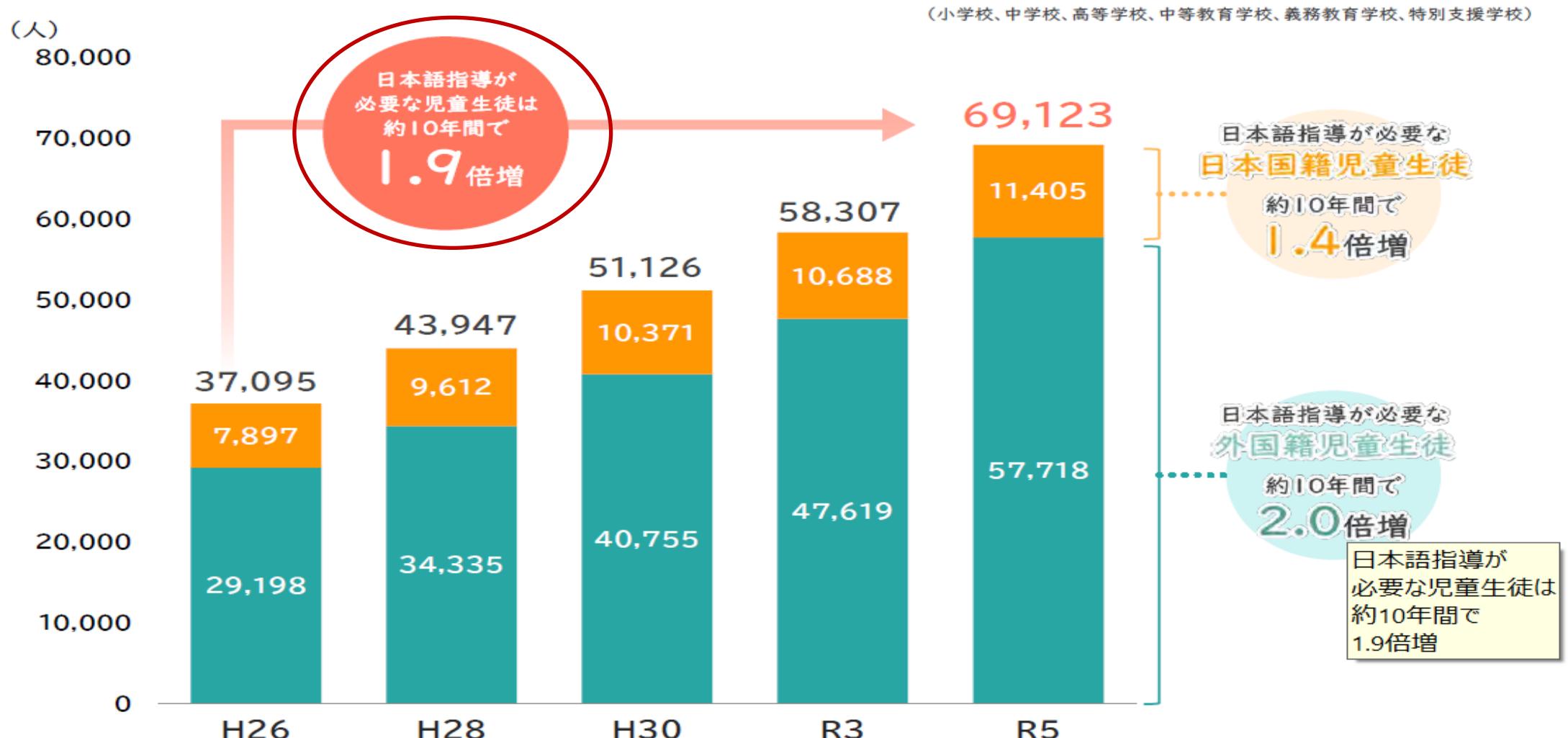
千葉市教育委員会

日本語指導体制の現状と今後の展望

- 1 日本語指導体制の充実が必要な背景
- 2 本市の日本語指導体制
- 3 今後の方針性



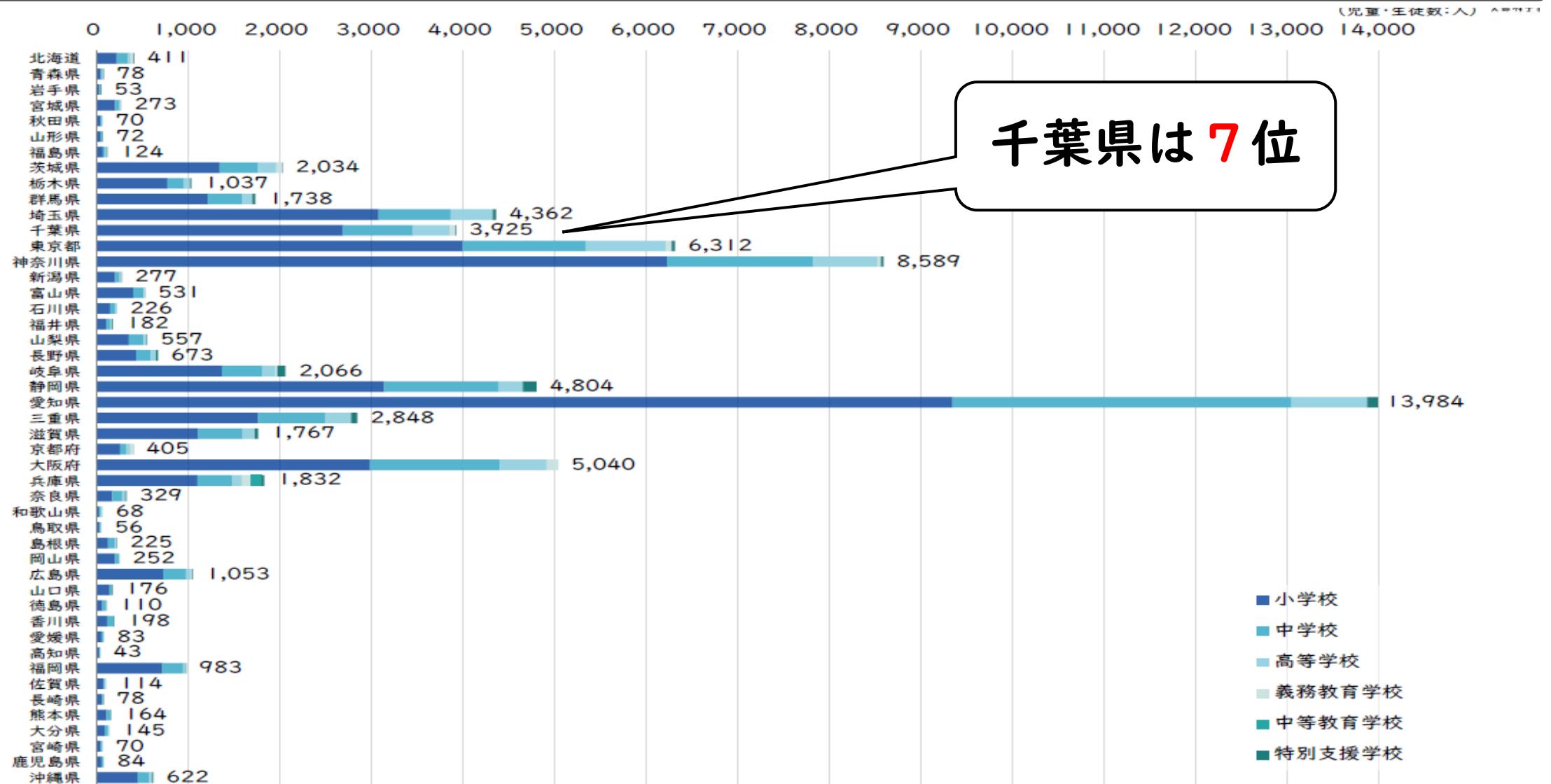
公立学校における日本語指導が必要な児童生徒の推移



(出典)文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」



日本語指導が必要な児童生徒の学校種別在籍状況（都道府県別）



出典)文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査(令和5年度)」



市内の外国にルーツをもつ児童生徒等の現状について

日本語指導の必要な児童生徒数 (R 7. 5. 1 現在)

	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
小学校	336人	338人	348人	421人	472人	498人
中学校	123人	121人	143人	129人	161人	186人
合計	459人	459人	491人	550人	633人	684人



日本語指導が必要な児童生徒の母語別人数

1	中国語（9）	353人
2	フィリピン語（3）	74人
3	英語	43人
4	ネパール語	32人
5	スペイン語（2）	28人
6	ベトナム語	20人
7	シンハラ語	14人
8	モンゴル語	13人
9	タミル語	12人
10	インドネシア語	11人
11	韓国・朝鮮語（2）	9人
	その他	75人

日本語以外の
児童生徒の母語の
言語数は
32言語

※（ ）は外国人児童生徒協力員数



本市の日本語指導体制

帰国・外国人児童生徒教育
(日本語指導)

日本語指導教員（加配）の配置 27人

外国人児童生徒指導協力員による
日本語指導 16人（4言語対応）

日本語指導通級教室での日本語指導 5人
(中学生のみ)

JSL児童生徒支援の会(ボランティア団体)
による日本語支援 15人

担任や教科担当による日本語指導



日本語指導におけるそれぞれの関わり

外国にルーツをもつ児童生徒等

学校

担任

国際理解教育主任

日本語指導担当教員（加配教員）

会計年度任用職員

外国人児童生徒指導協力員

日本語指導通級教室講師

J S L 児童生徒支援の会



【外国人児童生徒指導協力員】

（中国語、フィリピノ語、韓国・朝鮮語、スペイン語）
16人が350人に対応

○小中学校に訪問して母語を使って日本語の初期指導を行う。

（学習指導を主とはしていません）

○児童生徒の日本語習得の状況に応じて、日本語指導及び学校生活適応指導を行う。

○生徒指導や教育相談的な内容も含む。
必要に応じて、翻訳、家庭訪問、保護者との相談を行う。



日本語指導におけるそれぞれの関わり

外国人にルーツをもつ児童生徒等

学校

担任

国際理解教育主任

日本語指導担当教員（加配教員）

会計年度任用職員

外国人児童生徒指導協力員

日本語指導通級教室講師



J S L 児童生徒支援の会

【日本語指導通級教室】

- 市内に2カ所設置 生徒27人に対応
(真砂教室・千城台東教室、R5に花園中学校内にサテライト教室を開設)
 - 中学生対象の学習言語習得のための日本語指導
 - ・通級生徒の学習言語の習熟度に応じた日本語学習プログラムにより個別指導を行う。
 - ・学校と連携して高校入試に向けて、学習指導、作文、面接指導を行う。
- 時程 ①14:00～15:50 ②16:10～18:00



日本語指導におけるそれぞれの関わり

外国人にルーツをもつ児童生徒等

学校

担任

国際理解教育主任

日本語指導担当教員（加配教員）

会計年度任用職員

外国人児童生徒指導協力員

日本語指導通級教室講師

JSL児童生徒支援の会



【JSL (Japanese as a Second Language) 児童生徒支援の会】

- ・ [ボランティア団体]
NPOちば夢工房より1回1500円の支給
※R7の学校派遣は15人※児童生徒78人に対応
- ・ 外国人児童生徒指導協力員が対応できない言語（4言語以外）について、日本語指導が必要な児童生徒に日本語で支援を行う。
→高齢化等に伴い、組織の存続が心配



日本語指導におけるそれぞれの関わり

外国にルーツをもつ児童生徒等

学校

担任

国際理解教育主任

日本語指導担当教員（加配教員）

会計年度任用職員

外国人児童生徒指導協力員

日本語指導通級教室講師

J S L 児童生徒支援の会



【校内体制として】

〈国際理解教育主任〉

- 国際理解教育に関すること
- 帰国外国人児童生徒等教育に関すること
 - ・該当児童生徒の実態把握
 - ・外国人児童生徒等の受け入れ体制の確立
 - ・日本語指導が必要な児童生徒に対する特別の教育課程、個別の指導計画作成

〈日本語指導加配教員〉

- 日本語指導が必要な児童生徒数に応じて配置
R 7 : 小学校13校、中学校4校に27名配置

「外国人・児童生徒等へのきめ細かな支援事業」により国から
1／3程度の補助



今後の方向性 日本語指導推進委員会

課題

- 日本語指導体制の見直し
- プレクラス設置に向けた取組

1 日本語指導推進委員会の立ち上げ

(1) 設置目的 持続性のある初期段階における日本語指導体制の構築

外国にルーツをもつ児童生徒の増加、とりわけ、入国間もない児童生徒が急増し、多言語化に伴う外国人児童生徒指導協力員事業及びボランティア団体（JSL等）対応の制度の脆弱さから、初期指導において使用される日本語の質と一貫性を高めることを目的として、**体系的で実用的な指導プログラムの開発が必要**である。

その中でも、**サバイバル言語習得（初期の日本語指導）**段階において、日本語の集中的な指導が必要となる。サバイバル言語習得では、日本語の力を向上させることができ、生活のしやすさや学級での学習活動への参加のしやすさ、友達とのコミュニケーションの取りやすさに直結するからである。

しかし、現段階において、初期の日本語指導の補助に当たっている**外国人指導協力員やボランティアの来校頻度が1週間に1度程度であり、集中的に初級の日本語を習得させるための指導体制が整っていない**。

このような段階の児童生徒の日本語指導を支えるために、**プレクラスの設置は必要不可欠**である。また、プレクラスの設置は、単に言語の習得だけでなく、児童生徒が社会に適応し、学びを楽しむことができる環境を整えるために重要な役割を果たすと考える。



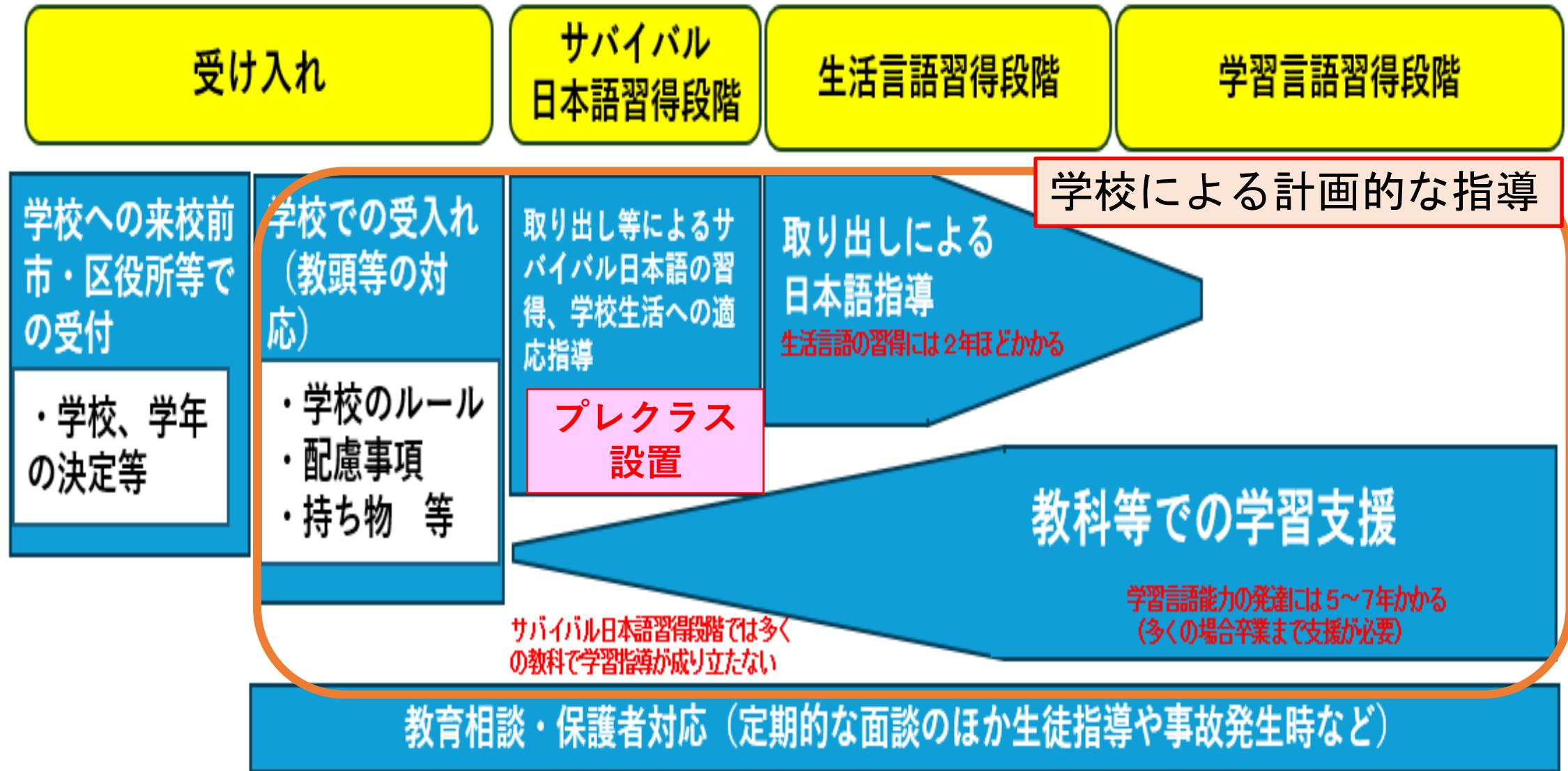
今後の方向性 日本語指導推進委員会

1 日本語指導推進委員会の立ち上げ

(2) 指導委員会の構成

アドバイザー	千葉大学名誉教授	国際理解	新倉涼子
委 員	安齋 直美	校長 [幕張本郷中]	国際理解教育推進協議会役員】
	平澤 典之	校長 [幸町小]	前教育指導課 国際教育班主任】
	長門 正洋	教諭 [高浜第一小]	国際理解教育推進協議会委員】
	内山 和成	教諭 [生浜中]	国際理解教育推進協議会委員】
事務局	教育指導課	国際交流課	

今後の方針性 日本語指導 各段階での対応・ニーズ





今後の方針性 指導体制整備のスケジュール

【R7整備展望】

- 日本語指導の新たな整備体制構想
 - ・外国人児童生徒指導協力員
4言語→5言語へ ※ネパール語？
 - ・日本語指導支援員の雇用
(JSL児童生徒支援の会含む)
※1時間2000円程度（交通費込）
 - ・公募も検討

- プレクラスに関する検討事項
 - ・開校数、開校場所等の検討

【R8～整備展望】

- プレクラスに関する協議事項
 - ・開校場所、指導員の決定
 - ・日本語初期指導の指導内容
 - ・プレクラスについて
全校への周知
 - ・プレクラス設置の準備
指導員研修内容検討



他自治体の事例

プレクラス設置状況 [東京都荒川区]

- ・実施形態：委託（多文化共生センター）
- ・対象：中学生
- ・実施場所：教育センター
- ・通級期間：3か月（火～金9:00～12:00）
- ・時間：1日4時間の授業
- ・人員体制：多文化共生センター指導員2名
※教員経験者 日本語指導資格者
- ・指導員謝金：月217,600円×2人＝委託費

※小学生に関しては、有償ボランティアを各学校へ派遣

横浜市

- ・3か所設置
- ・対象：通級可能な小中学生
- ・指導人員：5～9人
- ・通級期間：4週間
週3日プレクラスに通級

浜松市

- ・2か所設置
- ・対象：小6～中3
- ・指導人員：4～5人
- ・通級期間：10週間